



▲たくさんの親子が作品づくりを楽しんだ『森の工作室』

6月9日(土)と10日(日)の2日間、新緑に包まれ、ツツジや藤の花が咲く亀田記念公園で、子どもから大人まで楽しめる緑のイベント『第9回ラブグリーンフェスティバル in KAMEDA』が開かれました。

初日は曇り、2日目が雨とといったぐずついた天候でしたが、会場では庭木や観葉植物、草花を販売する『みどりの市』をはじめ、押し花づくりの実技講習を行う『押し花教室』や、公園内にポイントを設け、問題を解きながら自然の大切さを学ぶ『ウオークラリー』などが行われました。

初日には、自然のものを利用して、自然とふれあい、自由に遊び道具を作る『森の工作室』が行われ、参加者は木の葉や木の実を使ったスタンプ、小枝の弓矢などの作品づくりに挑みました。

2日目には、肌寒い天候の中、『ジャブジャブ川金魚すくい』が行われました。金魚が放されると子どもたちはズボンのすそをまくりあげ、一目散に水温の低い川に入り、素足で水の感触を確かめながら金魚すくいを楽しんでいました。

また、恒例の苗木の無料配布では、長蛇の列ができるほどの好評で、市民250人がツツジの苗を受け取りました。



▲元気に金魚を追い掛ける子どもたち(ジャブジャブ川金魚すくい)

## みどりに学ぶにふれて、みど

第9回ラブグリーンフェスティバル  
in KAMEDA

## もう水は怖くないぞ！

～少年水泳教室～

5月15日(日)から30日(水)までの間、10回にわたり、文化・スポーツ振興財団主催による『少年水泳教室』が開催されました。

小学校低学年の児童を対象に水泳に親しんでもらおうと毎年、市民プールで開かれているこの教室に、今年は48人の子どもたちが参加しました。

ほとんどが水泳の経験の少ない子どもたちとあって、前半は水に顔をつけるなどの水への恐怖心を取り除くための練習。それでも、回を重ねるごとに自分で泳いだり

する子どもが出てくるなど、子どもたちは上達が早く、後半には、歓声を響かせ、元気いっぱい水の感触を楽しんでいました。



## ふるさとの魅力を再発見

～我が町探訪～

5月27日(日)、自分たちのふるさとを知り、自然とのふれあいを楽しもうと、登別レクリエーション協会主催による『我が町探訪』が登別地獄谷周辺で開催されました。

この催しには、市民30人が参加。鮮やかな新緑に白い煙をたなびかせる地獄谷をはじめ、市指定文化財・円空作観音像、薬師如来、鉄泉池、遊歩道の草花、大湯沼など、登別の名所や文化遺産などを観光ボランティアから説明を受けながら見学しました。

中央町から参加した藤江勝三さんは、「身近な所ですが、地獄谷周辺をくまなく歩くのは初めてですね。意外と知らないことばかりで、勉強になりました。参加して良かった」と笑顔で話してくれました。



## 大きなジャガイモが育ちますように

～ふるさとふれあい農園～

5月18日(金)、幌別小学校のふるさとふれあい農園で、ジャガイモの植付け作業が行われました。

このふるさとふれあい農園は、作物づくりを通して地域の方たちとの交流を図りながら、土に触れる楽しさや作物を育てることの大切さを体験学習するもので、同校のほか、富岸小学校、青葉小学校、登別小学校で行われています。

この日は、2年生の児童70人が、常盤町の老人クラブ『緑寿会』の会員6人の方から指導を受けながら、一人3切れずつの種芋をそつと土に埋めました。

参加した岩崎光二郎君は「早く大きくなればいいな。できたら、肉じゃがにして食べてみたいです。」と収穫の時期を楽しみにしていました。

